

## 平成21年度手づくり看板全国コンクール 審査講評

全国農協青年組織協議会が主催する平成21年度手づくり看板全国コンクールには、全国33道府県から73作品の応募があり、平成22年1月21日(木)、東京大手町のJAビルで審査会を開催しました。作品募集テーマは例年どおり「農業のある地域づくりの大切さを地域住民へアピールできるもの」とし、その訴求力、インパクト、表現力などの視点から審査を行いました。

審査会では、東京都地域婦人団体連盟、JA全農、JA共済連全国本部、農林中央金庫、日本農業新聞、家の光協会、JA全中、農協観光の各団体からお集まりいただいた8名の委員で審査を行いました。

各作品ともそれぞれに個性のある力作ぞろいであり、特に賞に選ばれた作品は甲乙つけがたく、審査委員会における協議は難航しましたが、最優秀賞を1点、各団体の賞となる特別賞を(全国消費者団体連絡会賞はアート部門の最優秀作品に授与)8点選考しました。

審査の結果、最優秀賞には「JA金沢市青壮年部(石川県)」の作品が選ばれました。目を向けた一瞬で農業者が訴えたい想いが伝わってくる秀逸な構図であったこと、「農業が守ります 地域と環境」というメッセージが農業の重要性について素直に共感を呼ぶ内容となっていること等が評価されました。

全国消費者団体連絡会賞には、アート部門で最も優れた作品として、「JA上伊那青壮年部 手良支部(長野県)」が制作した牛のオブジェが選ばれました。通行人の興味を引くユニークなデザイン、思わず釘づけになってしまう訴求力のある視線等が評価されました。

JA全農賞には、「JAながさき県央青年部大村北支部(長崎県)」の作品が選ばれました。自分たちの思いを消費者に伝えたい、そして消費者の意見を農業に反映させていきたいという意気込みがしっかりと伝わってくることで、また、大きな空を見上げてそれを願う構図が印象的であるとして評価されました。

JA共済連賞には、「JAさが佐城青年部多久西部支部(佐賀県)」の作品が選ばれました。看板全体を絵手紙に似せるというアイデアが通行人の目を引き、メッセージの内容も優れているとして評価されました。

農林中央金庫賞には、「JA郡山市青年連盟 谷田川支部（福島県）」の作品が選ばれました。日本の農業・農村が抱えている様々な課題を連想させてくれる作品であるとして評価を受けました。

日本農業新聞賞には、「JA島根おおち青年連盟（島根県）」の作品が選ばれました。子どもたちがサツマイモを楽しそうに収穫している様子がきれいに表現されており、表情豊かな作品に仕上がっているとして評価されました。

地上賞には「JAあいら伊豆青壮年部（静岡県）」の作品が選ばれました。看板全体から一日の仕事を終えた際の充足感が伝わってくることで、そして、「明日があるさ・・・」の意味について各々の視点から考えさせられ、印象深い作品に仕上がっていることが高評価につながりました。

JA全中賞には、「JAかづの青年部（秋田県）」の作品が選ばれました。農業への想いがわかりやすく描かれており、農業に携わる人の気持ちを通行人がしっかりと汲み取ることができる作品になっているとして評価を受けました。

農協観光賞には、「JA愛知東青壮年部会（愛知県）」の作品が選ばれました。手形を敷き詰めるというアイデアが通行人の目を引き、この人たちが地域の農業を支えているのだという実感がリアルに伝わってくる作品になっているとして評価を受けました。

今回のコンクールには、メッセージが直球で伝わってくるもの、思わず目を引きつけられてしまう力を持ったもの、心和むもの、斬新な構図のもの等多様な作品が寄せられましたが、その一つ一つから制作に携わった盟友が看板に注ぎ込んだ想いがよく伝わってまいりました。また、本年度より募集の間口を広げたアート部門には、前年を大きく上回る数の作品が寄せられ、受賞作品以外にも田んぼアートやロールアート、ユニークな立体絵等、実に多様なアイデアが注ぎ込まれた作品が寄せられ、審査員の興味を惹いておりました。

一枚の看板制作が、地域・仲間を結び、農業への理解を深めます。今後も本コンクールの開催が看板制作の励みになること、そして青年部の看板が全国各地に建てられ、日本農業の情報発信源となり続けることを願ってやみません。